

タマネギ秋まき直播栽培におけるイネ科雑草防除方法

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

部門名 野菜－タマネギ－雑草防除

担当者 八木田靖司

I 新技術の解説

1 要旨

県内のタマネギ産地において、イヌムギ、ネズミムギ等のイネ科雑草が多発生し収量減少や収穫時の作業性を悪化させる事例が見られる。そこで、タマネギ秋まき直播栽培においてイネ科雑草に対して効果的な雑草防除方法を検討した結果、慣行の土壌処理剤に加え 10 月中旬及び 11 月下旬の 2 回、クレトジム乳剤を使用することで、イネ科雑草を防除できることを明らかにした。

- (1) 土壌処理剤を用いた慣行の防除体系に加え、10 月中旬と 11 月下旬の 2 回、イネ科茎葉処理剤のクレトジム乳剤を使用することで (図 1)、イヌムギ、ネズミムギ等の発生量を抑制し、タマネギの減収を防ぐことができる (図 2、3)。
- (2) ネズミムギ優占ほ場では、ほ場耕起前に発生した 5 葉期までのネズミムギは、耕起によるすき込みで防除できる (データ省略)。
- (3) これらの成果をとりまとめた「雑草防除マニュアル (仮称)」を作成した。

2 期待される効果

- (1) 秋まき直播栽培のイネ科雑草害による減収を抑制でき、収穫作業の作業性向上が図れる。

3 適用範囲

- (1) 中通り、浜通りのタマネギ秋まき直播栽培

4 普及上の留意点

- (1) 栽培予定のほ場に生育が進んだ地下茎型イネ科雑草や多年生雑草が繁茂している場合は、ほ場耕起・播種後に再生する可能性があるため、耕起前にグリホサート系除草剤などの非選択性茎葉処理剤を使用し完全に枯殺する。
- (2) 初回の防除時期が遅いと、イネ科雑草の生育が進み茎葉処理剤が効かず残草する。2 回目の防除時期が早い、または行わなかった場合、後発のイネ科雑草が繁茂する。2 回目の防除時期が遅いと、気温が低く茎葉処理剤の効果が低下し残草する。
- (3) 翌年の 3 月以降にイネ科雑草の残草が確認される場合は、必要に応じて除草を実施する。
- (4) 広葉雑草が繁茂する場合は、中耕除草を実施するなど別途必要な対策を行う。

II 具体的データ等

月 旬	9月			10月			11月			12月～2月			3月			4月			5月			6月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業	播種			防除、除草						越冬期間			(越冬後) 追肥			防除、除草						収穫・乾燥		
雑草防除体系	シアナジン水和剤			クレトジム乳剤			ペンディメタリン乳剤			クレトジム乳剤			中耕			IPC乳剤			プロスルホカルブ乳剤					

図1 タマネギ秋まき直播栽培のイネ科雑草防除体系

- ※ シアナジン水和剤（グラメックス水和剤）は播種後出芽前（雑草発生前）に使用する。
- ※ クレトジム乳剤（セレクト乳剤）は雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期）ただし収穫21日前までに使用する。
- ※ ペンディメタリン乳剤（ゴーゴーサン乳剤）は播種後～本葉2葉期（雑草発生前）に使用する。
- ※ プロスルホカルブ乳剤（ボクサー）は中耕後（雑草発生前）、ただし収穫45日前までに使用する。
- ※ IPC乳剤（クロロIPC乳剤）は中耕後、ただし収穫30日前までに使用する。
- ※ 農薬の登録内容は2025年12月時点の農薬登録情報。農薬使用時は最新の情報及びラベルの使用方法等を確認すること。

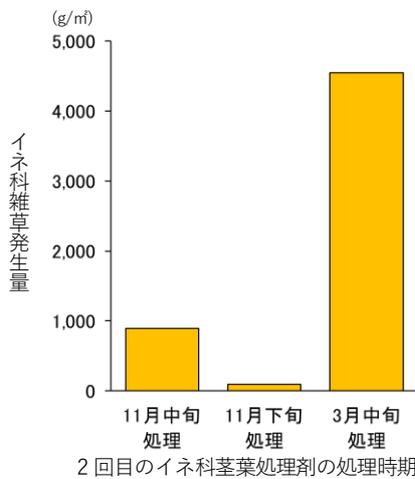


図2 クレトジム乳剤処理時期によるイネ科雑草発生量への影響
(試験地：南相馬市生産者ほ場、5月28日調査)

※雑草防除は下記の通り行った。

<土壌処理剤>

- 2024年9月18日 シアナジン水和剤 (薬量 75g/10a)
- 10月31日 ペンディメタリン乳剤 (薬量 400ml/10a)
- 2025年3月10日 IPC乳剤 (薬量 300ml/10a)
- 4月16日 プロスルホカルブ乳剤 (薬量 400ml/10a)

<イネ科茎葉処理剤>

- 2024年10月15日及び11月14日または11月26日または2025年3月14日 クレトジム乳剤 (75ml/10a)

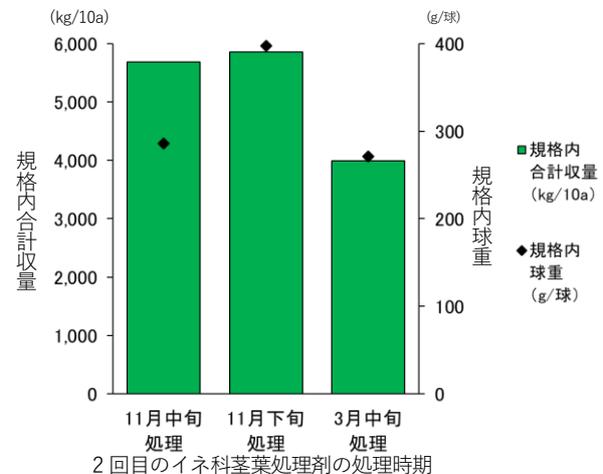


図3 クレトジム乳剤処理時期によるタマネギ収量への影響
(試験地：南相馬市生産者ほ場)

※「もみじ3号(七宝)」を2024年9月18日に播種、2025年6月18日に収穫した。施肥量は元肥 N:P₂O₅:K₂O=16.8:27.3:16.8 (kg/10a)、追肥 N:P₂O₅:K₂O=6.4:1.6:6.4。畝間150cm、株間8cm、条間24cmの4条播(10aあたり33,333粒)。

III その他

1 執筆者

八木田靖司

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和4～6年度
- (2) 研究課題名 先端技術を活用した施設野菜・畑作物の省力高収益栽培・出荷技術の確立
〔福島国際研究教育機構 (F-REI) 農林水産分野の先端技術展開事業(JPJ009997)「現地実証研究委託事業」(JPFR23060107、JPFR24060107、JPFR25060107)〕

3 主な参考文献・資料

- (1) 浅井元朗・與語靖洋, 関東・東海地域の麦作圃場におけるカラスムギ,ネズミムギの発生実態とその背景, 雑草研究 50, p73-81, 2005.